

この17年間にどんなきのこが増減したのか ～六甲山再度公園におけるキノコの多様性～

野中涼夏・石橋智尋・関口高雄・松本拓磨・田中茉莉・苗村明里・志村美樹・服部虎太郎
森下一輝・張琳華 (兵庫県立御影高等学校 環境科学部生物班)

はじめに

本校では平成20年度から兵庫県立人と自然の博物館・兵庫きのこ研究会・神戸市立森林植物園・神戸YMCA・バイオコスモ株式会社などと連携しながら六甲山のキノコの調査を行っている。六甲山の再度公園(ふたたびこうえん)のキノコの多様性を標本作成、生態分析などから明らかにし、多くの人に伝えることが活動の目的である。今回は過去17年間のキノコの出現順位の変動を、季節単位で菌根菌、腐生菌に分けて調査した。



調査方法

- ① 毎年3月～11月の第3日曜日に六甲山再度公園でキノコの観察会を実施
(兵庫きのこ研究会の定点観察会に参加)
- ② 2001～2017までのキノコの観察記録から、エクセルで4年ごとのキノコの出現頻度を算出
- ③ 順位変動幅が30%以上の種を菌根菌と腐生菌に分けて抽出
- ④ 季節ごとに占める順位上昇キノコと下降キノコの割合を調査

結果と考察

- ① 季節によって順位上昇キノコ、下降キノコの割合や種類は異なるが、3・4月のハマシメジや10・11月のミイロアマタケなどの順位低下、5・6月のダイダイガサの順位上昇など、温暖化の影響と思われる種が見られた。
- ② 菌根菌や木材腐朽菌では、順位下降キノコ、上昇キノコの出現種数に占める割合は、季節単位では差が見られるものの、平均するとほぼ同じであった。環境の変化に種を変えながら対応していると考えられる。

		3月4月	5月6月	7月8月9月	10月11月	平均
菌根菌	↑	0	1	5	4	3.0
	↓	1	2	6	4	3.3
木材腐朽菌	↑	3	4	0.8	2	2.5
	↓	5	0	2	2	3.0
落葉分解菌	↑	1	0.6	0.6	0.8	0.8
	↓	3	1	2	2	2.0

季節ごとの出現順位が変動したキノコの割合 (%)

一方雨の影響を受けやすい落葉分解菌では、下降したキノコの割合が上昇したものより圧倒的に多かった。過去17年間、年降水量の大きな変化は見られないところから、極端な雨の降り方が出現状況に影響を与えているのかもしれない。